

東洋医学通信

〈発行元〉
 阪神中国医学研究所
 尼崎市長洲本通1-16-17
 〈連絡先〉
 06(6488)8149

はり・きゆう治療によって 息切れの緩和を実証

二〇一二年五月、慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の主訴である労作時呼吸困難に対して、鍼治療が有効であることを世界で初めて実証したという記事が各新聞社によって報道されました。息

療が有効であることを世界で初めて実証したという記事が各新聞社によって報道されました。息

慢性閉塞性肺疾患

二〇一二年五月二六 神戸(朝刊)

はり治療有効 息切れ和らぐ

県立尼崎病院などのチーム

たばこや大気汚染の影響で呼吸が徐々に困難になる慢性閉塞性肺疾患(COPD)で起きる息切れを和らげるのに、はり治療が有効とする研究結果を明治国際医療大(京都府南丹市)や兵庫県立尼崎病院などのチームがこのほどまとめた。患者は通常の横隔膜呼吸ができなくなり、本来

は使う必要のない筋肉も使って呼吸せざるを得ず、疲弊しやすいという。同大の鈴木雅雄准教授は「はり治療で筋肉の疲弊が回復して呼吸しやすくなり、歩く距離が延びるなどの改善がみられた」とした。COPDは肺気腫や慢性気管支炎、気管支せんそくの総称。気管支の炎

症や気道がふさがることによって呼吸がしにくくなり、進行すると寝たきりになることが多い。今回は起きて活動中の息切れを対象とした。チームは、COPD患者約60人を二つのグループに分け、一方のグループには、息切れに効果があると思われる全身のほぼ20カ所に週一回約30分、はり治療を3カ月施し、片方には効果のない偽のはり治療をした。

両グループで、6分間全力で歩いた場合の息切れの症状の重さを、治療期間の前後で10段階評価してもらった結果、実際にはり治療を受けたグループは平均で5・5から1・9と和らいだ。治療前と比べ、6分間の歩行距離も約60%延びた。偽の治療のグループでは症状にほとんど変化がみられず、歩行距離は短くなった。成果は米医学誌オンライン版に掲載された。

切れの症状の重さ、一定時間における歩行距離が改善されたというものです。

COPDとは従来、慢性気管支炎、肺気腫と呼ばれていた疾患です。特徴的な症状としては息切れ、せき、痰で、喫煙が大きな原因とされています。また、進行が遅く、高齢になってから気づくケースが多いというもの特徴です。

COPDは、本邦では五三〇万人以上いると推計されており世界保健機構(WHO)の報告では二〇二〇年には世界の死因の第三位になると言われています。二〇〇五年の段階で、世界で二〇〇万人、国内でも一万四〇〇〇人が死亡しています。

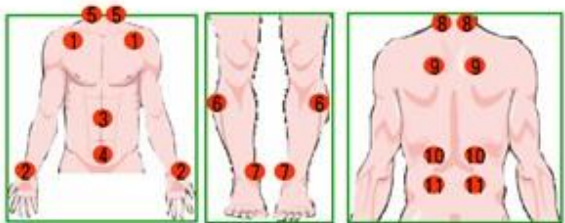
阪神中医研の取組み

阪神中医研鍼灸院では、五年前よりじん肺患者さんの治療を行なってきました。粉じんを吸入することによって肺に生じる不可逆性の繊維増殖性変化を主体とする病変を総称して「じん肺」といいます。じん肺は気管支炎、気管支拡張症、肺がん等を併発させるものであり、じん肺患者さんの治療とはじん肺と合併する気管支炎等の病気によって引き起こされる、または重篤なじん肺によ

る呼吸障害による息切れやせき、痰、胸・背部痛の緩和を目的として鍼灸治療を施行してきたという意味です。

現在一〇名のじん肺患者さんに鍼灸治療を行い、呼吸が楽になった、歩ける歩数・時間が増えた、背中の痛みが和らいだ、寝返りができるようになった等の感想をいただいています。

我々が使用していたツボが今回報道された研究で使用したツボ(左記図)と大部分一致していたということ、このような疾患に鍼灸治療が有効だと実証されたことは阪神中医研鍼灸院だけでなく、鍼灸業界にとって非常に意味があることです。



- ①: 中府(LU1)
- ②: 太淵(LU9)
- ③: 中脘(CV4)
- ④: 関元(CV12)
- ⑤: 扶突(LI18)
- ⑥: 太谿(KI 3)
- ⑦: 足三里(ST36)
- ⑧: 完骨(GB12)
- ⑨: 肺俞(BL13)
- ⑩: 脾俞(BL20)
- ⑪: 腎俞(BL23)